

平成 31 年度継続課題に係る継続評価書

研究機関 : (株)KDDI 総合研究所
: 「IoT/BD/AI 情報通信プラットフォーム」社会実装事業

研究開発課題 : 課題ⅢIoT デバイス/プラットフォーム等の連携技術の確立と相互
接続に向けた研究開発

研究開発期間 : 平成 29 ～ 31 年度

代表研究責任者 : 平林 立彦

■ 総合評価 : 適 (適/条件付き適/不適の3段階評価)
(評価点 17 点/ 25 点中)

(総論)

GDPRと個人情報保護法との比較に基づき、国際的に通用性の高いAPPMを開発し、その普及のために英 EPSRC との連携、PARMMIT 協議会の立ち上げを行うなど、アウトカム目標達成に貢献する成果を挙げている。

オープンなプラットフォームの標準化は大規模プラットフォームに対抗していくための鍵であるが、本研究の成果は、国際基準に準拠していることが公的に認められることによって、その適用が機能すると考えられる。標準化、OSS に加えてシステムの国際基準準拠認証までを含めた国際的な仕組み作りを期待する。

(コメント)

- GDPRと個人情報保護法との比較に基づき、国際的に通用性の高いAPPMを開発し、その普及のために英 EPSRC との連携、PARMMIT 協議会の立ち上げを行うなど、アウトカム目標達成に貢献する成果を挙げている。

- 本研究の成果は、国際基準に準拠していることが公的に認められることによって、その適用が機能すると考えられる。標準化、OSS に加えてシステムの国際基準準拠認証までを含めた国際的な仕組み作りを期待する。
- 概ね H31 年度の計画は実行可能な妥当なものであると認められる。
- 研究開発については、全体的に「機能を追加・拡張し実装した」、「性能を改善した」、「相互接続を実施した」等の結果のみが、或いは仕様や検証項目と思われる内容が列挙されているが、それらを実現するに至ったブレークスルー技術について、例えば相互接続を行うために必要な性能を達成した意義や、従来技術に対する優位性やインパクトなど、一般の方々にとっても専門家にとっても分かりやすく具体的に示し、アカデミックな側面での本研究開発プロジェクトの成果・意義も一層アピールしていただくことが望ましいと考えられる。
- 協議会の組成が出来ていることを高く評価している。この協議会への関心の高さは、大規模プラットフォームに全ての情報が吸収されていく事への脅威も背景にあると想像する。オープンなプラットフォームの標準化は大規模プラットフォームに対抗していくための鍵であるので、引き続き強力に研究開発を進めていただきたい。
- ユーザ・セントリック(ユーザ中心)のプライバシーに着目したことは新規性がある。
- GDPR との比較も十分に行っている。
- 協議会も立ち上げており、実証実験内容も具体的である。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

GDPR との比較も十分に行っていることから、前回指摘事項にも精密に対処し、日欧比較に基づく仕様を策定したことは評価できる。また、ユーザ・セントリック(ユーザ中心)のプライバシーに着目したことは新規性があり、今後重要となる観点であると認められる。

連携技術の確立の実証が進んでいることは素晴らしく、引き続き進めていただきたい。特に、具体的アプリケーション創出に向けてのコンソーシアム組成が大きな成果であると考えられる。

(コメント)

- 前回指摘事項にも精密に対処し、日欧比較に基づく仕様を策定した。
- 予定した目標を順調に達成した。
- 計画通りの成果が年度末までに出る見込みであると認められる。
- 特に、具体的アプリケーション創出に向けてのコンソーシアム組成が大きな成果であると考えられる。
- 連携技術の確立の実証が進んでいることは素晴らしく、引き続き進めていただきたい。
- ユーザ・セントリック(ユーザ中心)のプライバシーに着目したことは新規性があり、今後重要となる観点である。
- GDPR との比較も十分に行っている。
- 本プロジェクトで目指す点が、GDPR や個人情報保護法よりも、さらに新たな点を含んでいることを明示して欲しい。
- 協議会を立ち上げたことは意義がある。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

予算計画書等に則り、有効、効率的かつ適正な執行が行われていると認められる。
得られた成果に照らしても十分に効率的な予算執行であったと認められる。

(コメント)

- 計画に沿って執行し所期の成果を得た。
- 予算計画書等に則り、有効、効率的かつ適正な執行が行われていると認められる。
- 得られた成果に照らして十分に効率的な予算執行であったと認められる。
- 特に問題ない。

(3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

英 EPSRC との連携、PARMMIT 協議会の立ち上げによるアウトカム達成への貢献は評価でき、検証実験内容が具体的であることや、システムの高速化について妥当な成果を達成していることから、来年度の検証評価を期待する。また、OSS 化が計画に入っていることも評価する。

User Preference については、今後様々なユーザに対応する策を考える必要がある。日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)で提供している Security Policy 例のような Preference 例を示すのも一案として考えられる。

(コメント)

- 英 EPSRC との連携、PARMMIT 協議会の立ち上げによるアウトカム達成への貢献は評価できる。
- システムの高速化について妥当な性能を達成した。来年度の検証評価を期待する。
- 実行可能であり有効かつ効率的な計画であると認められ、研究開発及びアウトカム目標の達成が期待できる。
- OSS 化が計画に入っていることは評価したい。是非進めていただきたい。
- 検証実験内容が具体的である。
- オープンソース化も望ましい方向である。
- User Preference については、今後様々なユーザに対応する策を考える必要がある。
- 日本ネットワークセキュリティ協会(JNSA)で提供している Security Policy 例のような Preference 例を示すのも一案として考えられる。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

有効かつ効率的な予算計画が組まれており、積算額も妥当であると認められる。
本年度の実績から考えて、目標達成に適切な予算計画と考えられる。

(コメント)

- 本年度の実績から考えて、目標達成に適切な予算計画と考えられる。
- 有効かつ効率的な予算計画が組まれており、積算額も妥当であると認められる。
- 特に問題はない。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

PARMMIT 協議会を立ち上げ、成果の実証検証に必要な関連組織の協力を得る体制を築いたことと、増員が行われたことを高く評価する。

研究開発体制は適切であり、計画通りの事業進捗が見込まれる。

(コメント)

- PARMMIT 協議会を立ち上げ、成果の実証検証に必要な関連組織の協力を得る体制を築いた。
- 研究開発体制は適切であり、計画通りの事業進捗が見込まれる。
- 協議会の組成がうまくいっていることと、増員が行われたことを高く評価した。
- 妥当である。